

しまなみだより

第22号 2024年3月発行



春暖の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。3月22日には、卒業証書・学位記授与式が執り行われ、卒業生58名が巣立ちました。卒業生ひとり一人が自らの選んだ道で活躍してくれることと思います。教員一同、卒業生に再会できることを楽しみにしております。

今年1月より保健福祉学部、助産学専攻科、大学院保健福祉学専攻のSNS(X、Instagram)を開設しました。ご覧いただけますと幸いです。今号では、令和5年度後期の学生生活の様子をお知らせします。



雪の日のキャンパス (撮影: 3年片桐碧采子さん)

卒業研究報告会

12月2日に「看護学科卒業研究報告会」を開催しました。4年生は、一人一題の研究テーマを設定し、それぞれのテーマに沿った研究手法を用いて調査し、結果をまとめ考察を導くといった一連の研究手法について学んでいきました。報告会に向けて、学生は司会進行や座長の役割など入念に準備しました。また報告会当日は、研究成果の発表をし、質疑応答の時間には、堂々と自身の行った研究に対して、受け答えしている様子が見られ、4年間の成長が伺えました。学生は実習と国家試験対策と並行しながら研究を進め、大変だったかと思いますが、最後まで粘り強く取り組んだ成果を発表することができ、この経験は今後の糧になると思います。

報告会で発表した内容を「卒業研究論文集」としてまとめ、4年生にUSBで配布しています。是非ご家族の皆様もご覧になってください。(加利川真理)



学生が司会進行、座長を務めています



2つの講義室に分かれて発表しました



報告会が終わり、全員で集合写真を撮りました
皆さん、ホッとした様子です

第28回 浮城祭

10月28・29日に浮城祭が開催されました。今年のテーマは『破顔一笑～楽しんだ者勝ち～』。コロナ禍以降初めての学外者が入る大学祭となり、学生・教職員はもちろん、地域の方にもたくさんご来場いただきました。来場された方の楽しそうな様子を直接見ることができ、とてもうれしかったです。

自治会長として臨んだ大学祭は、初めてのことで大変なことたくさんありましたが、1年生も含め、たくさんの方に支えてもらい、無事完走することが出来ました。私自身も運営として携わることができ、達成感で胸がいっぱいです。今後も地域の方にも楽しんでもらえる行事として、さらにパワーアップしてほしいと思っています!

(2年 岡綾梨)



1～4年生の授業紹介

1年生 日常生活援助方法論Ⅰ

この科目では、日常生活を支援する看護技術の基本的方法を学び、日常生活援助を必要とする対象に必要な配慮と看護職として期待される態度と姿勢について考え、実践できることを目標としています。事前課題に取り組み、看護技術の動画を視聴して手順を確認したうえで演習に臨み、演習では学生同士で看護師役・患者役・観察者を交代で実施しています。看護師役だけでなく患者役を経験することで、対象に必要な配慮について身をもって感じ、看護職としての基本的姿勢を身に付けることにつながっていることと思います。また、観察者として看護師役が援助を実施する場面を観察して、お互いの気づきをフィードバックしあっています。今年度からユニフォームが男女兼用のデザインに変更になり、12月から新しいユニフォームを着用して演習に臨んでいます。(池田ひろみ)



二股聴診器で血圧を測定し、測定値が一致しているか確認しています



今年度から男女兼用のユニフォームになりました

2年生 地域看護対象論Ⅱ

地域看護対象論Ⅱ(集団、地域)では、地域で生活している様々なライフステージにある人々、あらゆる健康レベルにある人々を、集団として捉え、健康問題の傾向や健康課題への対策と支援方法について学びます。地域の健康課題を見つけるには、健康に関する情報を集め、統計資料を見て分析することが必要になります。授業では、最近の健康指標データや行政の対策などを基に、看護職が地域で予防的な活動をおこなう基礎的知識を身に付けることを目指しています。

学生に自分の母子健康手帳を持参してもらい、母子保健に関する法律や制度と見比べることで自身の生活や健康と制度との関わりについて確認したり、感染症の集団発生についてグループワークで事例を読み解きながら初動調査とその分析、対策を検討するなど、講義と演習を組み合わせ理解を深める授業となっています。

(俵志江)



授業の様子



高齢者施設での感染症が集団発生した事例をグループワークする様子



「難しい・・・」と言いながらも、資料やテキストを見てグループで協力して考えていました

3年生 慢性病看護実習

慢性病看護実習は3週間で行います。1週目は地域医療連携室や透析室、外来化学療法室での実習です。ここでは、地域包括ケアの動向を踏まえ、外来で治療を受ける人や療養の場の調整を必要とする人への看護支援や多職種連携・協働について学修しました。2～3週目の病棟実習では、慢性病と共に生活する人を理解したうえで個別性に合わせた看護を提供するため、看護師や他職種から助言をいただきながら受持ち患者への看護実践を行いました。実践後は、記録やカンファレンスなどで自分の行為や患者の反応を振り返り、言語化・意識化することで、看護の価値や意味を深めていくことができました。学生は、患者個々の健康状態や療養生活の維持・改善のために患者に向き合う姿勢が持てたこと、他職種も含めたチームの一員として役に立てたこと、患者のよい反応や変化がみられたことに看護のやりがいや喜びを感じたようです。

(木場しのぶ)



実習指導者から指導を受ける様子



毎日のカンファレンス



学びのまとめ(学内)

4年生 チーム医療福祉演習

この科目では、医学事例検討や、患者・サービス利用者と触れ合う体験などを中心にこれまで学んできた専門知識・技術や実習の経験にもとづきながら、学科横断的な小グループで多面的に討論します。3日間という限られた時間の中ですが、学生は専門職連携実践能力を高められるよう、専門性と患者・障がい者などサービス利用者を中心とする意識を持ち、自律しながら他学科の専門職と連携し、お互いに学び高めあうことを目指します。医学事例の検討では、5学科混成(看護、理学、作業、コミュニケーション障害学、人間福祉学)の10～11人からなるグループでグループワークを行います。学生からは、「異なる専門領域の学生で学び合い、意見交換をする体験をとおして専門職の連携・協働の基盤となる信頼や尊重を実感することができた」など感想が聞かれました。また、コロナ禍の影響で他学科と対面で交流することが4年生までなかったため、この科目を通して一緒に学び、対面で意見交換する大切さも改めて認識でき、大変有意義な3日間となりました。

(上野陽子)



学生表彰

…… 3年生9名が表彰されました ……

県立広島大学では、学術研究活動や課外活動に積極的に取り組み、特に優れた業績を挙げた学生を対象に、学生表彰を行っています。今年度、看護学コースでは学業成績優秀者として3年生6名と各種活動等優秀者(大学生ボランティア立ち上げ、三原市の子育て事業支援)として3年生3名が表彰を受けました。

学業成績優秀者(敬称略)

小田原 萌衣、梶原 千聖、木下 碧、
金城 樹奈、越道 凜、山田 桃子

各種活動等優秀者(敬称略)

加美田 晃子、衆樹 湧、原田 夏帆



サークル紹介

弓道部

弓道部は、日本の伝統的な武道である弓道を愛し、学びたい人たちが集まるクラブです。

当クラブでは、弓道の技術向上だけでなく、精神面や文化的な側面も大切にしています。

弓道部は週に1回、活動を行っています。その他に外部から先生を招いて練習を行うこともあります。また、地域や学内外で開催される弓道の大会やイベントに積極的に参加しています。これにより、メンバーは自身の実力を試し、他の学校との交流を行っています。

先日の中四国弓道大会では、「女子団体3位入賞6勝3敗169中」「女子射道優秀校」「女子最高の中賞 柳原73/84」という優秀な成績をおさめています。

(2年 岡本隆之介)



県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

教員紹介



基礎看護学 教授 奥田玲子

2023年10月に基礎看護学領域に着任しました。基礎看護学では、看護を構成する基本的概念や看護実践のための基本的知識・技術の教育を行っています。

Albert Einsteinは、「何かを学ぶのに、自分自身で経験する以上に良い方法はない」と述べています。学ぶことは、学修者の内でのみ成立します。看護実践の経験をとおして学ぶためには、状況において何を感じ、考え、判断して、どのような行為をするか(したか)を自身に問いかけ、意味づけることがきわめて重要です。

自分の行為は「対象の健康的な生活の実現に貢献しているか?」を自問することが鍵となります。学生の皆さんには、看護専門職として自ら学び成長していくための基礎的能力を培ってほしいと思っています。



地域・在宅看護学 教授 菅井敏行

2023年9月に着任しました。地域・在宅看護学を担当しています。これまで国立感染症研究所で呼吸器ウイルスの研究とワクチンの認証、評価をおこなってきた基礎医学の研究者でしたが、看護師、保健師の仕事の幅広さや深さに惹かれ、看護師、保健師の免許を取得して臨床を経験した後に看護分野の教員となりました。専門とする研究分野は複数ありますが、それらすべてが「人」の理解につながるものです。看護学は奥深く、常にチャレンジしながら前に進んでいます。

〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
TEL 0848-60-1120 (代表) FAX 0848-60-1134 (代表)
✉ nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
URL <https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/nursingc/>



ご意見、ご感想など
お寄せください。

発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科／保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 広報係

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima